

# 高活協通信(2022年7月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

## ◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

### ■お知らせ

- 高活協理事会を開催しました。
- 高活協会員様とのランチ交流会(上田研二理事長を偲んで)を2022年7月25日に開催します。
- 今月の「70歳就業法」関連情報欄に、「70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況」を掲載しました。
- 高活協通信「今月の一冊」は、「いのちのスクワット～2度のがんから私を救った～」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
  - ・「高活協ホームページ」のURLは以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

### ■2022年6月の主な活動

- 高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を自粛しております。ただし、少人数の会議やZOOM等を利用したオンラインの会議・イベント等は新型コロナの感染状況を睨みながら適宜実施しております。
- 2022年6月2日、高活協理事会(ZOOM会議)を開催しました。議題は特に設けませんでした。上田研二理事長のご逝去を受け、高活協の今後について意見交換を行いました。
- 2022年6月17日、高活協理事会(日本橋兜町の高活協オフィス会議室)を開催しました。議題は理事長の選任など上田研二理事長亡きあと高活協の運営を今後どのように進めていくかです。
- 2022年6月20日、高活協が加盟している高齢社会NGO連携協議会(高連協)の総会(ZOOM会議)に出席しました。会議では通常の議題のほか、高齢女性の就労や社会参加の問題、また今年の10月から施行される労働者協同組合法についても意見交換を行いました。
- 2022年6月20日、東京大学高齢社会総合研究機構が中心となって設立した未来社会共創センターの理事会に出席しました。高活協としては、高齢者就労・生涯現役の分野で引き続き同センターと連携していくことを確認しました。
- 2022年6月27日、同じく未来社会共創センターの総会に出席しました。
- 「70歳就業法」関連情報欄では、「70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況」を掲載しました。

○高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2022年6月号)」を掲載しました。

○2022年6月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお「70歳就業法」関連情報は、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス◆◆◆」のコーナーに、適宜掲載していきます。

## ◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

---

### ■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.agenomics.org/>

## ◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

---

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

## ◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてー トピックス◆◆◆

---

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という4つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。

そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

### ■70歳就業法ー 職業寿命の延伸と生産性の向上を両立させられるかが鍵

○昨年4月から「70歳就業法」が施行され、企業等に70歳までの就業確保措置の努力義務が課されることになりました。企業等にとっては、「70歳就業法」の施行を、単に国による職業寿命の延伸政策ととらえるのではなく、全社的な人事・雇用制度を見直し、社員の意欲と生産性を高めるための機会と位置づける必要があります。

○今後このトピックスのコーナーでは、「70歳就業法」の施行に関連した情報を適宜掲載していきます。企業等の人材活用戦略などの参考にしていただければ幸いです。

---

2022年6月24日、厚生労働省は2021年「高年齢者雇用状況等報告」(2022年6月1日現在)の集計結果を取りまとめ公表しました。その中で法律の施行から1年を過ぎた70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況が報告されていたので以下にご紹介します。

## 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況(厚生労働省調査結果)

報告した全企業において、70歳までの高年齢者就業確保措置(以下「就業確保措置」という。)を実施済みの企業は59,377社(25.6%)で、中小企業では26.2%、大企業では17.8%であった。

### ― 就業確保措置 ―

高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第10条の2に基づき、定年を65歳以上70歳未満に定めている事業主または65歳までの継続雇用制度(70歳以上まで引き続き雇用する制度を除く)を導入している事業主は、その雇用する高年齢者について、次に掲げるいずれかの措置を講ずることにより、65歳から70歳までの安定した雇用を確保するよう努めなければならない。

①70歳までの定年の引上げ、②定年制の廃止、③70歳までの継続雇用制度(再雇用制度・勤務延長制度)の導入、④70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入、⑤70歳まで継続的に社会貢献事業に従事できる制度の導入(事業主が自ら実施する社会貢献事業または事業主が委託、出資(資金提供)等する団体が行う社会貢献事業)

### ― 70歳までの就業確保措置を実施済みの企業の内訳 ―

- ① 定年制の廃止は9,190社(4.0%)
- ② 定年の引上げは4,306社(1.9%)
- ③ 継続雇用制度の導入は45,802社(19.7%)
- ④ 創業支援等措置の導入は79社(0.1%)

上記のように厚生労働省の調査では、4分の1の企業が実施済みと答えています。そして実施済みの割合は規模の小さい企業ほど大きくなる傾向があるようです。さらに、どの規模の企業でも就業確保措置のうち継続雇用制度の導入を選択した企業が圧倒的に多くなっていますが、特に規模が大きくなるほどその傾向は顕著です。また、創業支援等措置(上記「就業確保措置」のうち、④と⑤)の導入を選択した企業は、いずれの規模でも0.1%程度と小さいものでした。

## ◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

### ■今月の1冊

人生100年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書名:いのちのスクワット～2度のがんから私を救った～

著者:石井直方なおかた

出版社:マキノ出版

(URL <https://www.makino-g.jp/book/b592560.html>)

定 価:1430 円(税込)

新型コロナウイルスの感染状況は、やや落ち着きを見せてきているように感じられますが、同時に、新しい生活様式の定着によって、活動量が減ったと感じている人も少なくないと思います。実際、仕事上でも、テレワークの機会が増えたり、情報通信機器を使った打合せを選択したりする人もいるでしょう。

活動量の低下で気になるのは、運動不足にともなう健康問題です。本書によると、「筋肉の量は、30 歳頃がピークになると考えられており、その後は加齢に伴ってしだいに減っていきます。何もやらなければ、80 歳になる頃には、太ももの筋肉はピーク時の半分にまで減る」とのことで、活動量の低下がこれに拍車をかけかねません。

筋肉量の低下対策として著者が勧めるのは、年齢に関わりなく取り組むことが出来るスクワット。なかでも、身体に余分な負担をかけない「スロースクワット」です。スロースクワットは、軽い負荷なのに高強度の筋トレのような効果が得られ、しかも動きがゆっくりしているので安全性が高いとされています。

スロースクワットの詳細は本書に譲りますが、シニア世代に向けては、「筋トレは、いくつになっても始めることが可能で、いくつになっても効果をもたらします。70 歳になっても、80 歳になっても、90歳代のかたも決して例外ではありません」と著者が述べていることをお伝えしておきましょう。

著者の石井さんは、東京大学でスポーツ先端科学の研究に従事した研究者で、筋肉研究の第一人者として知られています。また、学生時代からボディビルダーやパワーリフティングの選手として活躍しており、日本ボディビル選手権で優勝するなどの実績をお持ちです。筋肉を知り尽くしているからこそ書くことができた好著だと思われます。

(個人賛助会員:坂巻 大)

---

## ■高齢者雇用の総合誌『エルダー』2022 年 7 月号(2022 年 7 月 1 日発行)のご紹介

発行:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.go.jp/elderly/data/elder/index.html>

<特集> 新任人事担当者のため的高齢者雇用入門

改正高年齢者雇用安定法の施行から約 1 年が経過し、70 歳就業の実現に向け、高齢者雇用の取組みを本格化する企業も多いのではないのでしょうか。企業とそこで働く高齢労働者が Win-Win の関係を築いていくためには、改正法の概要とともに、改正の背景やねらい、高齢者雇用の現状・課題について理解を深めておくことが肝要です。そこで今号の特集では、新たに人事部門に異動・配属された読者のみなさんに、高齢者雇用の現状と課題について理解を深めてもらうための「高齢者雇用入門」をお届けします。

**総論** 高齢者雇用の現状と課題

高千穂大学 経営学部 教授 田口和雄

**解説** 1 70 歳就業時代の賃金・評価制度

2 70 歳までの活躍をうながすためのミドル世代からの準備

3 多様で柔軟な働き方の整備

高千穂大学 経営学部 教授 田口和雄

4 安心・安全に働ける職場づくり

福岡教育大学 教育学部 准教授 樋口善之

65歳超雇用推進助成金について

高齢・障害・求職者雇用支援機構 高齢者助成部

高齢者雇用促進のためのその他の助成金

編集部

<連載>

○リーダーズトーク(No.86)

筋肉はより長く健康に生きるための基盤 「スロトレ」で強化し、病気にも打ち勝つ

東京大学名誉教授 石井直方さんに聞く

○江戸から東京へ 作家 童門冬二(第116回)

ある“青春”の話

○高齢者の職場探訪 北から、南から(第121回)

大阪府 株式会社ヤマヒロ運輸

○知っておきたい労働法 Q&A(第50回)

退職金制度の位置づけ、公益通報者保護法と懲戒解雇

○病気とともに働く(第4回)

株式会社アートネイチャー

○いまさら聞けない人事用語辞典(第26回)

「早期退職・希望退職」

株式会社グローセンパートナー 執行役員・ディレクター 吉岡利之

○新連載 マンガで学ぶ高齢者雇用 教えてエルダ先生

(第1回)若手社員が定年延長の方針に不満を抱えています

○TOPIC 人事担当者が考える中高年人材の課題

株式会社 Works Human Intelligence

○日本史に見る長寿食(vol.345)食文化史研究家 永山久夫

江戸老人の元気食、ウナギのかば焼き

○「生涯現役促進地域連携事業」より

地域発の取組みから学ぶシニア就業

○イキイキ働くための脳力アップトレーニング!(第61回)



配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍



支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

---

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926      HP: <http://www.agenomics.org>

---